



学校だより



11月号

令和8年10月31日
江戸川区立瑞江小学校

さわやかな秋の読書月間

校長 牧岡 優美子

秋本番、校庭の木々は徐々に色づき、さわやかな季節になりました。「さわやか」という言葉は秋の季語です。もともと、秋は乾燥して透明度が高く、雲も高いところのできるため空が高くなり、さっぱりとして気持ち良いという意味の「さわやか」が秋の季語になったそうです。いろいろなことに集中できる秋、「スポーツの秋」「芸術の秋」「食欲の秋」「読書の秋」、何をするにも心地よい季節になりました。



さて、11月は瑞江小の読書月間です。1～3年生が「読書の記録」4～6年生が「読書ビンゴカード」に取り組みます。また、自分が選んだ本の中から1冊選んで「おすすめの本紹介カード」を作成し掲示します。子どもたちが選んだ本の題名が並ぶと、1年生から6年生への発達段階の成長が見られたりして、とても楽しいです。

瑞江小には毎週金曜日、読み聞かせボランティアの皆さんが朝の時間に来校し、クラスごとに読み聞かせをしてくださいます。登校時に「今日は読み聞かせの日だ!」と、楽しみにしている子どもの声を聞きます。ボランティアの皆さんが、低、高学年のそれぞれに合った本を選んで、じっくりと読み聞かせをしていただく時間は、子どもたちにとって宝の時間です。ありがとうございます。

本来、読書は自由な時間で、読み手によって思い浮かぶ情景は十人十色です。映像と異なり、自分にしかない想像が広がるという余白と強みがあります。魅力的な登場人物に感情移入し、想像することを楽しむ自由は圧倒的です。登場人物と共に喜び、悲しみ、時には怒りながら、人としての様々な感情をなぞることで「自分と同じ気持ちだ」「こんな気持ちになるのだな」「自分が言いたいことはこれなんだ」等と心が揺らぎ、自他の感情を理解する手助けになります。さらに、多くの言葉や表現、新しい知識に接し、その意味を理解したり、「自分だったらどうするだろう」と考えたりする力が身に付きます。長文が読めると学力も伸びると言いますが、好きな本に出会い、好きなように読む楽しみを子どもの時代に知ってほしいと思います。

また、瑞江小では読後の感想文を書く学習も続けています。読書の喜びや感動を表し、考える力を伸ばす1つの方法が読書感想文です。感想文には正解がありません。本の内容をしっかりとらえ、その子らしい表現で揺らぎながらも書き進めたものはしっかり伝わります。今年度は「全国青少年読書感想文コンクール」の江戸川区審査会に応募した作品の中から、2名が江戸川区代表に選ばれて東京都審査会へ出品されました。

「継続は力なり」、書く指導を続ける価値を、改めて感じています。

今月は音楽学習発表会があります。子どもたちの学習の成果を、どうぞ一緒に楽しんでください。お待ちしております。